

領域・小問ごとの分析	対策の視点
のである。	
<p>4. 商を分数で表す</p> <p><math>5 \div 6</math> を分数で表す問題であるが正答率は65%である。誤答では分母と分子が逆であったり、割り算した結果を分数に直そうとする誤りが見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小数は分数で表すことができるが、分数には小数で表せないものもあることを理解させる。</li> </ul>
<p>5. 小数点の位置の移動</p> <p>正答率は58%で、約半数の理解に止まっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>十進数では、小数点が1けた右へ移ると10倍の大きさを表し、1けた左へ移ると<math>\frac{1}{10}</math>の大きさを表す。これを利用して、形式的に小数点の移動ができることを理解させたい。</li> </ul>
<p>6. 小数を帯分数で表す</p> <p>2.8 を分数に直す問題である、誤答は、<math>2\frac{8}{10}</math>、<math>\frac{28}{10}</math>、<math>\frac{14}{5}</math>などで、正答率は60%である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分数は常に既約分数の形に、仮分数は帯分数に直すことを習慣づけたい。</li> </ul>
<p>7. 分数を小数に直す</p> <p><math>\frac{3}{8}</math> を小数に直す問題であるが、正答率57%と低い。小数第三位で割り切れるが、計算途中で放棄する児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算技能を高め、計算に対する粘り強さや自信を持たせるようにしたい。</li> </ul>
<p>8. 被乗数、乗数、積の関係</p> <p>正答率は35%とかなり低い。乗数が小数であれば、積は被乗数より小さくなるという誤りが多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗数が1より小さい場合は、その積がどうなるか、また小数の場合はどうなるかという具合に色々な場面を与えて考えさせる。</li> </ul>
<p>9. 分数の大小関係</p> <p>正答率が44%と低い。異分母分数の大小比較は通分や小数に直して比べられることがよく理解されていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通分によって分数の大小比較ができることをよく理解させる。</li> </ul>
<p>10. 分数の相等関係</p> <p>正答率は59%である。<math>\frac{6}{8}</math>と<math>\frac{10}{16}</math>は等しいと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相等関係は何によって比較できるか、その方法的なことが直ぐ考え出せる指導が望まし</li> </ul>